

新総合計画の骨子案について

1 基本コンセプト

「夢・実現型」・「未来志向型」の計画とする

2 計画の全体構成

(1) 将来構想 (概ね20年後の姿)	① 時代の潮流		
	② 京都の強み		
	③ 20年後に実現したい京都府の将来像		
(2) 基本計画 (概ね4年の計画)	① リーディングプロジェクト		
	② 基本施策 (7本柱20戦略)	20年後に実現したい姿	
		現状分析・課題	
		4年間の対応方向	
		具体方策	重点方策
			推進方策
	数値目標		
③ 計画の進捗管理			
④ 地域振興計画			

(1) 将来構想 (概ね20年後 <2040年> の姿)

① 時代の潮流

- ▶ 人口等の将来見通しやそこから想定される課題などについて記述します。
- ▶ 人口や産業構造等の現状・将来予測は以下のように見込まれています。(国立社会保障・人口問題研究所 日本の将来推計人口 2018年推計等による)
- ▶ 新総合計画には、グラフ等用いて記述するとともに、下記以外の項目についても検討していきます。
 - 京都府の人口は、2015(H27)年の約261万人が、2040年には約224万人となり、約37万人減少すると見込まれており、人口増はもとより減少を食い止め維持していくことさえ難しい状況が予想されます。
 - 後期高齢者数は、2015(H27)年の約34万人が、2040年には約46万人と、約12万人増加すると見込まれ、医療・介護体制の充実が求められます。
 - 15歳から64歳の生産年齢人口は、ピークであった1995(H7)年の約184万人が、2040年には約120万人と約64万人減少すると見込まれ、生産性の向上が求められます。
 - 府内総生産は直近10年で最低であった2009(H21)年の9兆4,415億円が、2015年では、10兆3,455億円と約9,000億円増加しています。

- 有効求人倍率は、右肩下がりから反転した2009(H21)年度の0.51倍から上昇を続け、2017(H29)年度は1.53倍となっていますが、一方で中小企業では人材確保が課題となっています。
- 観光入込客数は、「海・森・お茶の京都」のターゲットイヤー前となる2014(H26)年の約8,375万人が、2017(H29)年には約8,687万人と約312万人増加しています。

② 京都の強み

- ▶ 京都の持つ「強み」について記述します。
- ▶ 文化、観光資源、大学・企業集積などの「強み」について記述することとし、下記以外の項目についても検討していきます。

(文化)

- 茶道、華道、能・狂言、葵祭、祇園祭、時代祭などの伝統文化の中心地であること。
- 京料理などの和食文化、西陣織や丹後ちりめん、京焼・清水焼や黒谷和紙などの伝統文化が引き継がれていること。
- 文化庁が京都に移転すること。 等

(観光資源)

- 都道府県別外国人訪問者数が人口当たりで全国1位であること。
- 多くの社寺仏閣や歴史的町並み、日本三景・天橋立、海・山・溪谷など豊かな自然に恵まれていること。
- 職人技が光るお土産物、着物体験などが観光客を惹きつけていること。
- 丹後ぐじ、丹後とり貝、丹波くり、京たけのこ、宇治茶など豊かな食があること。 等

(大学集積)

- 40を超える大学があり人口比で大学数や学生数などが全国1位であること。
- 外国人留学生は約9,000人で人口比で東京都に次いで全国2位であること。
- 日本初の小学校や女学校の開校、大学の誘致に力を注いだ歴史があること。 等

(企業集積)

- 伝統産業や先端産業、機械金属業、アニメ・ゲームなどのサブカルチャーまで多様な産業構造が形成されていること。
- 創業150年以上続く老舗企業の出現率が全国トップであること。
- 関西文化学術研究都市を有し、最先端企業や研究機関など140を超える施設の集積により、府内産業等との連携による経済発展が望めること。 等

③ 20年後に実現したい京都府の将来像

- ▶ 20年後の将来像について、前述の「京都の強み」を踏まえて記述します。
- ▶ 記述に当たっては、以下の視点を踏まえ5つ程度の社会像を提示します。

- | | | | |
|----------------|-----------|-------------|-------|
| ○安心・安全 | ○地域コミュニティ | ○府民協働 | ○人権尊重 |
| ○多様性 | ○産業創出・成長 | ○グローバル化への対応 | |
| ○分かち合い(シェアリング) | ○強靱な社会 | ○SDGsの理念 | 等 |

(2) 基本計画（概ね4年の計画）

① リーディングプロジェクト

- ▶ 計画期間中に特に重点的・横断的に推進するプロジェクトについて記述します。
- ▶ 以下の3つ程度の分野をプロジェクトとして設定します。

○ 子育て環境日本一関係

⇒ 子育てに関して、医療、福祉、教育、就労、地域力など、各施策が連携した総合的なプロジェクトを推進します。

○ 新しい産業の創造関係

⇒ ものづくり、観光、情報など各産業の成長化やベンチャー支援に加え、AI・IoTの導入などソサエティ5.0に対応する総合的なプロジェクトを推進します。

○ 文化の新しい展開関係

⇒ 文化庁の京都移転と東京オリンピック・パラリンピックを見据えた京都文化の国内外への発信や、文化政策と産業政策の融合による総合的なプロジェクトを推進します。

② 基本施策

- ▶ 以下に掲げる7本柱・20戦略ごとに具体施策について記述します。

(1) 次代を担う人材	① 希望あふれる子育て (記述内容) ※以下②～⑳まで同じ ○ 20年後に実現したい姿 ○ 現状分析・課題 ○ 4年間の対応方向 ○ 具体方策(重点方策・推進方策) ○ 数値目標 ② 夢を実現する教育
(2) 医療・介護・福祉の安心	③ 健やかで生き生きとした暮らし ④ 安心できる介護・福祉の実現
(3) 安心・安全な地域と暮らし	⑤ 災害に強い地域 ⑥ 犯罪や事故のない暮らし
(4) 人と地域が共に輝く社会	⑦ 人権が尊重される社会 ⑧ 男性も女性も誰もが活躍できる社会 ⑨ 障害者が生きがいを感じられる社会 ⑩ 留学生、外国人が生き生きと暮らせる社会 ⑪ コミュニティが大切にされる社会
(5) 産業の成長と環境創造	⑫ 産業の創出・成長・発展 ⑬ 魅力ある観光 ⑭ 雇用の安定と人材育成 ⑮ 農林水産業の成長産業化 ⑯ 脱炭素社会へのチャレンジ
(6) 文化とスポーツでつなぐ未来	⑰ 文化力による未来づくり ⑱ 誰もが親しみ夢が広がるスポーツ
(7) 新たな基盤整備と交流活性化	⑲ 成長交流基盤の整備 ⑳ 新しいまちづくりと地域活性化 ○ もうひとつの京都の推進 ○ まちづくり構想 ○ 京都市と連携する主要施策

③ 計画の進捗管理

- ▶ P D C Aサイクルによる総合計画のフォローアップについて記述します。

(参考資料：府民意見聴取の状況)

① 府民意見交換会の開催状況

開催地域等	開催テーマ
京都市内(11月)	すべての人が夢と希望をもって、いきいきと活躍できる社会の実現に向けて
山城地域(12月)	お茶を飲みながら山城の未来づくりを話しましょう
南丹地域(10月)	「京都丹波ブランド」のさらなる魅力発信に向けて
中丹地域(11月)	中丹での多様な働き方・暮らし方～あなたにとって豊かな暮らしとは～
丹後地域(10月)	丹後の今後の地域振興について語り合おう

※上記のほか「西脇知事との行き活きトーク」併催で実施

② スマートフォン等からの意見募集の状況

- 産業・観光振興や地域活性化策など338件の意見を収受（12月末現在）